

No.	内容	説明
1. (仮称)西信達義務教育学校の建設に関わる用語説明		
1	小中一貫教育	小学校と中学校の9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育のことです。施設の形態としては、小学校と中学校の校舎が同じ敷地内にある「一体型」や、小学校と中学校の校舎が別の敷地にある「分離型」などがあります。小中一貫教育を行う学校制度としては、大きく分類すると、「義務教育学校」と「小中一貫型学校」の2つの形態があります。
2	義務教育学校	義務教育学校は、小学校から中学校までの義務教育を一貫して行うことを趣旨として、2016年(平成28)年4月から制度化された新たな学校種です。一人の校長のもと、一つの教職員組織が置かれ、義務教育9年間の学校教育目標を設定し、9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施することができます。
3	6-3制	6年間の小学校教育と3年間の中学校教育の普通教育を修了することとなっている現行の義務教育制度のことです。
4	4-3-2制(5-4制)	義務教育9年間を見通したカリキュラム(教育計画)を編成・実施するため、教育課程の区切りを「小学1~4年生の4年間」、「小学5・6・中学1年生の3年間」、「中学2・3年生の2年間」の『4-3-2制』や「小学校1~5年生の5年間」、「小学6~中学3年生の4年間」の『5-4制』などに設定している学校が増えてきています。(仮称)西信達義務教育学校では、9年間の学年段階の区切りと指導の方向性をしっかりと見極め、学年段階の区切りを設けて指導するため、1年生から4年生までを「基礎・基本期」、5年生から7年生までを「習熟・接続期」、8年生・9年生を「充実・発展期」とする『4-3-2制』の区切りとすることを考えています。
5	前期課程、後期課程	義務教育9年間の教育課程のうち、小学校教育の6年間は「前期課程」、中学校教育の3年間は「後期課程」といいます。
6	多目的教室	従来の普通教室や特別教室を使用することが困難な多目的の活用に供するスペースを「多目的教室」といいます。(仮称)西信達義務教育学校では、同学年や異学年など複数の学級の活動・交流空間やランチルームとしての活用、学年での合同授業などの多様な学習形態や活動に柔軟に対応することができる多目的な(用途を限定しない)空間を整備します。
7	学校の多機能化・複合化	学校に異なる用途の施設を集約し、複数の機能をもたせることです。単独の施設として整備するよりも多様な学習環境を創出するとともに、児童生徒と地域住民などの施設利用者との交流を深めることができ、また、公共施設を有効的に活用することができます。
8	留守家庭児童会	保護者が労働等により、昼間家庭にいない小学校児童に対し、授業終了後、衛生及び安全が確保された専用施設等を利用して適切な遊び及び生活の場を提供することにより、子どもたちの健全育成、自立支援及び子育て支援を図ることを目的とした施設のことです。
9	スクールカウンセラー(SC)	児童生徒に対する相談のほか、保護者及び教職員に対する相談、教職員等への研修、事件・事故等の緊急対応における被害児童生徒の心のケアなど、多岐にわたり、学校の教育相談体制に大きな役割を担っている人です。
10	スクールソーシャルワーカー(SSW)	児童生徒が置かれている様々な環境に着目して働き掛けることができる人材や、学校内あるいは学校の枠を越えて、関係機関等との連携をより一層強化し、問題を抱える児童生徒の課題解決を図るためのコーディネーター的な役割を担っている人です。

No.	内容	説明
11	ラーニングセンター	図書室、コンピューター室、自習室などの教室をラーニングセンターとしていることがあります。 (仮称)西信達義務教育学校では、図書室や外国語教室、コンピューター室の機能を複合させ、調べ学習や読書、英会話授業、ICT教育などの多様な授業形態や自主学習に柔軟に対応できるクリエイティブな学びの空間として、ラーニングセンターを整備します。
12	教科担任制	教科担任制とは、教員が特定の教科を担当し、教科の専門性を生かした授業を行う指導形態のことです。 学級担任制のように、一人の教員がひとつのクラスを相手に全教科を教えるのではなく、一人の教員が教科を限定して(例えば算数なら算数を主に)受け持ち、複数のクラスにまたがって指導する方法です。 (仮称)西信達義務教育学校では、5年生から部分的に教科担任制を導入することを考えています。
13	T・T(チームティーチング)授業	複数の教員がチームとなり、各教員がそれぞれの得意分野及び専門性を生かしながら、協力して指導する方法です。
14	カームダウンスペース	外部の音や視線を遮断し、気持ちを落ち着かせて、パニックを防ぐためのスペースです。 (仮称)西信達義務教育学校では、周囲の音や光、においなど、外部からの刺激によって、感情やストレスが高まった時に、外からの音や光、目線を遮ることができ、気持ちを休ませ落ち着かせる居心地の良い空間を整備します。
15	高一クライシス	高等学校進学後、学習や生活面での大きな環境変化に適応できず、生徒が不登校に陥ったり、退学したりする現象のことです。 高校では学区が広範囲になり、新たな環境に身を置くことが多くあること、幼少期から培ってきた人的つながりが切れ新しい人間関係を構築すること、学習面・運動面での得意分野において自信を喪失したりといったことなどが主な原因だと言われています。
16	コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度) ※設置努力義務	学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みです。コミュニティ・スクールでは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができます。

No.	内容	説明
2. (仮称)西信達義務教育学校へのQ&A		
1	新しい(仮称)西信達義務教育学校のめざす姿はどのようなものか	<p>≪暫定案です≫今後新しい学校で検討します  「泉南市教育大綱(令和5年1月)」における泉南市の教育の基本方針、「泉南市教育振興基本計画(令和5年3月)」で掲げる「目指す子ども像」並びに「基本理念」及び「西信中学校区めざす大人像(暫定案)」と整合を図り(仮称)西信達義務教育学校における『めざす義務教育学校像(案)』を以下の3点のとおり設定しました。</p> <p>①個々の価値観や多様性を尊重し、こころとからだがかたくましく育つ学校  ②子どもたちが居場所を感じ、日々を過ごすことができる安全・安心な学校  ③地域や社会とつながり、地域とともに次代を生き抜いていける学校</p>
2	(仮称)西信達教育学校の整備方針はどのようなものか	<p>現在、上記の『めざす義務教育学校像(案)』をもとにして、以下のとおり、学校に求める空間や条件などを整備方針としています。</p> <p>①豊かな活動や経験を確かな学びへとつなげる柔軟な教育環境の充実  ②安全・安心な施設整備  ③多様なつながりをつくり、つながりを深化させる空間の整備  ④地域に開かれた地域の核となる拠点の整備</p>
3	(仮称)西信達義務教育学校における教育目標・教育内容はどのようなものか	<p>≪暫定案です≫今後新しい学校で検討します  9年間の「学び」や「育ち」をつなぐ取組として、以下のとおり考えています。</p> <p>①9年間を見通したカリキュラム(指導計画)の編成を行い、特色ある小中一貫教育を推進  ②子どもたち自身が自己の成長を実感できるとともに、保護者、地域の方々も児童の成長を喜び合うために、前期課程修了式(小学校卒業式に相当)、後期課程進級式(中学校入学式に相当)の実施  ③義務教育前期課程から段階的な教科担任制の実施  ④全校児童生徒による運動会や各種集会、避難訓練等の実施など異学年編成による教育活動の充実  ⑤「聞く、話す、読む、書く」の4技能を身に付けられる9年間を見通した英語教育の充実  ⑥地域に根差した特色ある取組</p>
4	なぜ、西信達小学校と西信達中学校を一つにして、施設一体型小中一貫校にするのか	<p>施設一体型小中一貫校は、9年間を見通して、小中学校の教員が子どもを見守ることができるため、つまずき・課題を速やかに共有でき、支援体制が作りやすいとともに、教職員間の意識も1つにまとまり学校運営に反映しやすくなります。</p> <p>また、異学年の交流機会をより多く確保できるとともに、より多くの教職員が子どもと関わるができるため、子どもを多角的・多面的に見ることが可能となり、児童生徒の安心感にもつながるものと考えています。</p> <p>加えて、子どもどうし・教員どうしの交流・会議を行う際にも施設間の移動がないため負担軽減につながり、小中一貫教育をより充実させるためには、施設一体型小中一貫校は効果的であるという利点があります。</p>
5	なぜ、義務教育学校にするのか	<p>義務教育学校を設置している自治体からは、義務教育学校は1つの教職員組織であるからこそ、小中一貫教育の推進や児童・生徒の発達段階を踏まえた学びと育ちを保障する上で最も適切な学校種であると聞いています。</p> <p>西信達小学校と中学校は、これまで西信達地区で1つの小学校と1つの中学校が連携して教育活動を進めてきました。それをさらに発展させ、系統的に9年間の指導と支援を行い、生徒たちの成長をサポートしていくため、新しく建設する学校は、(仮称)西信達義務教育学校へと進化します。</p>
6	西信達小学校の沿革	<p>明治5年8月 信達郷学校分校として設置  昭和22年4月 西信達村立小学校に改称  昭和31年10月 泉南町立西信達小学校に改称  昭和45年7月 泉南市立西信達小学校に改称  昭和48年11月 創立100周年、校歌制定置  令和5年11月 創立150周年</p>

No.	内容	説明
7	西信達小学校がこれまでにやってきた特色ある取組	①海岸清掃 全校児童による校区に位置する岡田浦漁港・海岸とりんくう南浜公園の清掃活動を実施しています。 ②引網体験 岡田浦漁業協同組合の協力を得て地引網体験しました。
8	西信達中学校の沿革	昭和22年4月 泉南郡西信達村立中学校として開校(泉南郡西信達村立西信達小学校に併設) 昭和22年12月 現在の西信達中学校敷地に移転 昭和31年10月 泉南町立西信達中学校に改称 昭和45年7月 泉南市立西信達中学校に改称 平成8年11月 創立50周年
9	西信達中学校がこれまでにやってきた特色ある取組	①防災教育チャレンジプラン実践校 防災学習を学校教育の柱とし、中学生とともに地域の防災活動に取り組むことで、家庭や地域の防災意識を高めています。また、保育所・小学校・中学校、保護者、地域のつながりを意識した活動を展開しています。 ②西信達ボランティアクラブ 西信達クリーンアップ作戦」と題して、地域のごみ拾い・清掃活動を実施民生委員や児童委員のご協力を得て実施しています。
10	義務教育学校では、小学校高学年のリーダー性が低くなるのではないのか	児童生徒の発達に即した学年区切りを設定し、節目ごとにリーダーとしての役割を持たせるなどの工夫により、9年間の成長を見通した連続的・断続的な役割と責任を身に付けることができる機会を設けます。
11	義務教育学校から他校へ転校した場合、教育課程にズレが生じるのではないのか	義務教育学校の学習指導要領はなく、前期課程(小学1～6年生)は小学校の学習指導要領、後期課程(中学1～3年生)は中学校の学習指導要領が準用されます。 転校(転入)した児童生徒は、同じような学習内容をほぼ同じ学年で行います。学習進度については、他校との違いが多少あるため、転校(転入)する学校と引継ぎなどの対応を行います。
12	例えば、いじめ等があった場合、義務教育学校では同じ人間関係が9年間続くことで、解消されない課題も出てくるのではないのか	これまでも西信達地区では、多くの児童生徒が小中学校の9年間を同じメンバーで過ごしなが、成長してきました。 人間関係の固定化に起因するいじめ等が長期間継続するということへの心配は、義務教育学校であるなしにかかわらず、1小1中という状態である以上、不可避だと考えています。 そのため、9年間の初めの段階から、「個々の価値観や多様性を尊重し合える」人間関係づくりを大切にしていきたいと考えています。
13	これまでの小学校や中学校で実施されていた行事(修学旅行、運動会など)はどうなるのか	前期課程、後期課程で別々に実施することも、合同で実施することも可能です。 運動会等の行事については、今後、学校において決める予定です。
14	義務教育学校では6年生の卒業式や中学1年生(7年生)の入学式はどうなるのか	前期課程修了式(小学校卒業式に相当)、後期課程進級式(中学校入学式に相当)の実施し、子どもたち自身が自己の成長を実感できるとともに、保護者、地域の方々も児童の成長を喜び合う機会を設けます。
15	1年生から9年生までの学校を1名の校長先生で運営するのは大変ではないのか	1つの学校となることで、児童生徒数や教職員数が増加するため、その指導・管理等において校長先生の業務量が増えることが想定されます。 (仮称)西信達義務教育学校では、校長1名、教頭2名(前期課程・後期課程)及び副校長1名を配置し、現在と同じ管理職4名体制で運営することを検討しています。